



発生している。夏場の貴重な収入源であるサルボウも、近年の大雨等により資源が減少し、令和2年頃から不漁が続いており厳しい状況である。安定した漁業経営の難しさから後継者の減少が深刻な問題となっている。

### 3. 女性部の組織と概要

白石支所女性部は、龍王支所と白石町北明支所との合併により平成23年度に発足した。当時は41名の部員が所属していたが、現在は8名まで減少し、部長1名、副部長2名、部員5名で活動している。

少ない人数のため、年に数回集まって食事をしながらノリの生産

についての意見交換や、子育てなどの話をしながら交流を深めている。部員数の減少により思うような活動もできなくなったが、できるだけ積極的な活動を心がけている。

主な活動は、海岸、河川の清掃、わかしお石けんの全戸配布と普及活動、講習会の開催などを行っている。

近年、地球温暖化に伴う異常気象で大雨の被害も多くなり、大雨の後の海岸清掃では大きな流木が流れ着き撤去作業等が大変である。さらに、流木と一緒に多く海岸に流れついているのが、ペットボトルなどのプラスチックのゴミだ。プラスチックはゴミとして捨てられると自然に分解されることがほとんど無く、最終的に海に流れ込んでしまい、海の生物や環境に悪影響を与える。世界中の海には、毎年約800万トン、東京スカイツリー222基分ものプラスチックのゴミが流れ込んでいると言われており、このままだと2050年には、海に流れ込んだプラスチックのゴミの量が、海の魚の量を超えるだろうという予想もある。普段から「プラスチックのゴミをなるべく出さないように、マイバックやマイボトルを持ち歩く」や「ペットボトルはリサイクルに出す」などを皆で心掛けている。

夏にはノリ消費拡大を目的としたPRノリの配布活動や、安心安全なノリを消費者に届けるためノリを加工販売している商社である(株)サン海苔工場見学も行った。

私たちが生産するノリを購入している商社の声を直接聞くことで、その商社がどのようなノリを求めているのかを再確認することができた。工場では、異物混入チェックはもちろん、細菌チェックや防塵、防虫対策などの衛生管理も徹底して行われており、ノリは食品であり、衛生管理が最も重要であると痛感した。

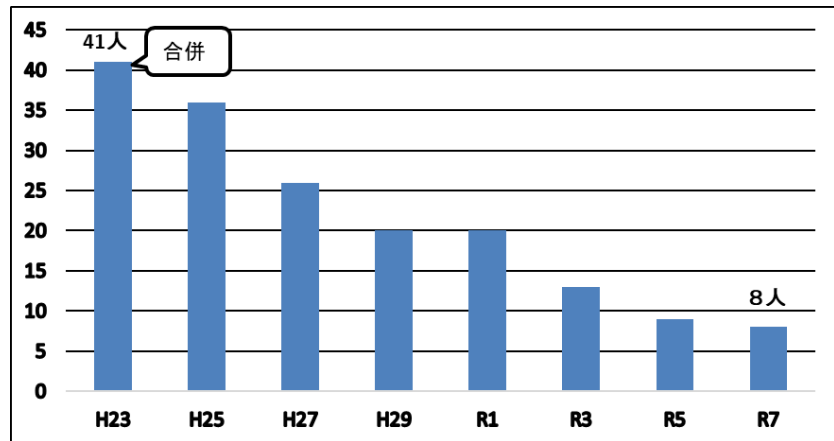


図4 白石支所女性部の人数の推移



図 5 女性部活動（意見交換、海岸清掃、工場見学）

#### 4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

当支所の主幹漁業であるノリ養殖業も、栄養塩不足によるノリの色落ちで不作への不安はなくなる。有明海はかつて、赤潮が発生しにくい海として知られていたが、最近では毎年のように赤潮が発生している。プランクトンの異常増殖により赤潮が発生すると川から流れてくる栄養塩をノリより先に摂取してしまうため、ノリが栄養塩不足になり色落ちしてしまい深刻な問題となっている。少しでも海の



図 6 色落ちした黄色い海苔

の状態が良くなるように、海からの収入で生活している者として私たちが海の為にできることは何か話し合った結果、女性部で長年取り組んでいる「わかしお石けん」の利用推進活動を行うことにした。

各家庭から海へ排出される生活排水は台所4割、トイレ3割、風呂2割、洗濯1割といわれ、海や川の汚れは洗剤や油を含む生活排水が主な原因となっている。産業排水は企業努力などで減らしていくことはできるが、生活排水は私たち一人一人が意識して抑えていかない限り、減少に転じることはない。生活排水で河川が汚れると、その水を綺麗にするために膨大な時間と資金がかかる。使い終わった油を500ミリリットル海に流してしまうと、魚が暮らせる状態に戻すにはお風呂560杯分の綺麗な水が必要になる。わかしお石けんの普及活動を行っていくなかで、安価で便利な合成洗剤と比べると値段が高い、香りがよくないなどマイナスの声を聞くこともあるが、良い面もある。私ごとだが、3人の子供がおり、小さい頃は3人とも皮膚が弱く、特に一番下の男の子がアトピーで、乾燥する冬場になると痒みが出て血が出るまで掻いてしまう。合成洗剤を使ったらてきめん、象の皮膚みたいに固くなり可哀想だ。しかし「わかしお石けん」を使うとアトピーの症状もあまり出なくなり、夏場は痒みがなくなった。

そもそもわかしお石けんの事を知らない。という方も多いので、赤ちゃんからでも使える「わかしお石けん」を多くの方に知ってもらいたいと思い、商品の紹介も兼ねて小さいお子さんがいるご家庭を対象に石けん教室を開催することにした。



図 7 家庭から排出される生活排水の割合      図 8 わかしお石けんを使用した場合のアトピーの改善イメージ

## 5. 実践活動状況及び成果

白石町内で環境学習に積極的に取り組んでいる「わかば保育園」の協力のもと、園児や保護者、先生方 40 名を対象に天然石けん教室を開催した。初めに石けんと合成洗剤の違いや石けんの歴史を園児たちにも分かりやすいように紙芝居を用いて説明を行った。その内容を少し紹介する。

まずは石けんの歴史について説明をした。石けんの起源は古代ローマの初めごろ、宗教的な儀式がもたらした発見とされている。羊を焼いて神に供える風習があったサポールの丘で、羊をあぶっている時に滴り落ちた羊の油が木の灰に混ざって石けんのようなものができたと言われている。ソープの語源は、この「サポールの丘」に由来していると言われている。

石けんが日本に渡来したのは戦国時代で、ポルトガル船によってもたらされた。しかし、渡来の石けんは貴重品で将軍や大名など限られた人のみしか使えなかった。当時の日本では、界面活性作用があるサポニンが含まれる「ムクロジ」の実などを使って洗濯をしていた。

次に合成洗剤の歴史について説明した。現在多くの人が利用している合成洗剤は第一次世界大戦の頃に石炭を原料にドイツで開発され、第二次世界大戦の頃に石油を原料にアメリカで本格的に製造されたものである。昭和 38 年頃に石けんと合成洗剤の生産量が逆転し、合成洗剤の泡公害などの有害説が国会で議論されるようになった。

次に石けんと合成洗剤の違いについて説明を行った。石けんは水中生物や小魚のエサになり、プランクトンにより水と炭酸ガスに分解される。さらに、薄まると界面活性力を失うので体への影響はほとんどないと言われている。その反面、合成洗剤は分解に長い時間がかかり、手荒れや湿疹等の皮膚障害を引き起こし、環境にも影響を与える。

園児たちには少し難しい内容もあったが、五分程の紙芝居を真剣に聞いていた。石けんと合成洗剤について勉強した後、園児たちに楽しく環境に優しい石けんに慣れ



図 9 天然石けん教室の開催

親しんでもらう為にコネコネマイせっけん（廃油石けん成形体験）教室を行った。

廃油石けんとは、調理場から排出される廃食油を有効活用した、高品質のリサイクル石けんである。

今回はエスケー石鹸のコネコネマイせっけんのキットを用いて石けん作り教室を行った。紙ねんどのような感覚の石けんで、自分だけの石けんを形作ることができ、成形後は数日乾燥させ、固まってから使用する。成分はせっけん素地（廃食油 80%、食用油脂 20%）とアルカリ剤できている。園児たちはウサギや恐竜など思い思いの形の石けんを作っており、「自分が作った」という事で石けんに興味を持ち、石けんで手を洗うのを楽しみにしているようだった。

最後に参加された保護者の皆様や保育園の先生方にわかしお石鹸のパフレットを配布し、原料を厳選し肌にも優しく環境にも穏やかな商品であることの説明と使用方法や購入方法等の説明も行った。協力いただいた「わかば保育園」へはわかしおハンドソープと白石町のPRノリをプレゼントし、大変喜んでいただいた。



図 11 紙芝居で石けんについて説明している様子      図 12 コネコネマイ石けんを作成している様子

## 6. 今後の活動計画

昨今、環境問題に関する問題は大きくとりあげられ、世間の誰もが危機感を覚えているだろうと思う。これからは自分たちの普段の生活の中から少しでも環境の改善に取り組んでいくべきだと思う。

私ごとだが、結婚した当時から「宝の海は寝る暇も惜しんで海に出てきばった者に施してくれる」とずっと言われてきた。確かにその通りで、今まですごく恩恵を受けてきたと感じる。その海が、今、悲鳴を上げている。恩をかえす時が今きていると思う。

私たち白石支所女性部は、8名と少人数ではあるが、今回のわかしお石けん利用推進活動を通じて、海辺に暮らし、海を知る者として、自らの足元を見つめ直し、一つ一つできることを実践していく必要があると感じた。今回の天然石けん教室をきっかけに天然石けんの大切さに気付いた部員が増え、白石支所での1人当たりの年間購入数が活動前の令和5年度から令和6年度では、24.89個/人から31.78個/人に6.89個/人増加した。令和7年10月末現在、1人当たりの年間累計購入数は38.75個/人となっており、昨年度

の年間累計購入数を超えた結果となった。一人でも多く一つでも多く合成洗剤から天然石けんに変えることができれば海洋環境はよりよくなると思う。

今後は、より多くの方にこの取り組みを周知してもらうためにも、このような活動を継続していきたいと考えている。自分たちができることからコツコツとわかしお石けんの普及活動や海岸清掃などを通して、多くの方が環境問題へ目を向け「宝の海」とよばれた有明海を取り戻し、息子またその息子も有明海で漁業を営んでいけるような活動をしていきたいと思う。